

新任保育者における保護者対応の現状と課題

久松 尚美

Current Status and Issues in Dealing with Parents among Newly Appointed Kindergarten and Nursery School Teacher

Naomi HISAMATSU

I はじめに

筆者が所属する保育者養成校においては、多くの学生が保育士資格及び幼稚園教諭免許の取得を目指し、卒業後は地元の保育所・認定こども園・幼稚園に就職している。2年間という限られた修業期間の中で、専門職としての知識や技術を習得することを目指し、卒業後は保育者として巣立っていくこととなる。新任保育者は、仕事全般や保育実践においても初めて経験することが多く、困惑したり、また理想の保育・保育者と現実のギャップに葛藤しながら、保育者としてのアイデンティティを形成していくとされり、それに加えて保護者と連携し、子どもの育ちを支える視点をもって子育て支援を行うことも求められている。新任保育者ではあるものの、就職して間もなく、保護者対応を担う場面が訪れることとなる。それらに対応すべく、養成校では講義や演習において身に付けてきた知識、実習を通して培った経験を踏まえ、保護者対応における技術や心構えを基礎とした演習等の実践を試みている。

卒業までに身につけてきた専門職としての土台となる知識や技術に加え、その後保育者としての経験を重ねることで専門性がさらに磨かれることが期待されるものの、就職して1年足らずの新任保育者が保護者と対応するなかで、どのような現状に直面しているのであろうか。

そこで本研究では、新任保育者が保護者対応において抱える課題および相談対応の現状を把握することを目的とする。

II 方法

1. 調査対象

「令和2年度 幼稚園・保育所・認定こども園新規採用者研修」に参加した62名のうち、本調査への協力に同意した61名から、栄養士1名を除外した60名を調査対象とした。

2. 調査時期と方法

調査は、2020（令和2）年11月26日に実施した。新規採用者研修の終了後、本調査の目的を説明し、調査協力への依頼を行い、質問紙を配布し、記入後回収した（無記名式にて実施）。

3. 質問紙の構成

本調査で用いる質問紙は、「幼稚園・保育所・認定こども園新規採用者研修」〔2017（平成29）年～2019（令和元）年〕を受講した新任保育者が回答した質問紙自由記述内容を分類し、ラベル化された項目に基づき作成した²⁾³⁾⁴⁾。

質問紙は、【1】所属、担当する子どもの年齢、【2】保護者対応における戸惑いや難しさとして5件法によって評定する15項目と、評定理由の自由記述、【3】保護者からの相談の有無、相談内容の自由記述、【4】保護者対応について困ったときに相談できる人の有無と自由記述、【5】学生時代に勉強しておけばよかった・知っておきたかったことについての自由記述からなる。

4. 倫理的配慮

本研究は、所属大学の倫理審査会に申請し承認されている（2020年11月）。対象者には、本研究の目的および調査協力への依頼を口頭にて説明するとともに、調査用紙にも本研究の主旨および調査協力への依頼文を記載した。また、本調査への協力に同意した場合のみ、回答・提出していただく旨口頭にて伝えた。個人情報とプライバシーの保障については、本調査は無記名式にて実施すること、調査結果は統計的に処理され研究の目的以外に使用することがないこと、プライバシーが侵害されないよう最大限の注意を払い、個人が特定されないよう配慮することを口頭で説明し、調査用紙にも記載した。

III 結果及び考察

1. 質問紙項目【1】～【4】について、結果と考察を以下に述べる。

【1】調査対象者の属性と担当するクラス（子ども）の年齢

所属においては、幼稚園21名、保育所9名、認定こども園30名であった。

担当するクラス（子ども）の年齢としては、0歳児1名、0・1歳児3名、1歳児4名、1・2歳児1名、2歳児14名、3歳児19名、4歳児16名、3・4・5歳児2名であった。

【2】保護者対応における戸惑いや難しさについての評定

下記15項目について、保護者対応における戸惑いや難しさとして、どの程度自分にあてはまるか「評定の仕方（1：まったくあてはまらない、2：あてはまらない、3：どちらともいえない、4：あてはまる、5：非常にあてはまる、の5件法）」のいずれかで回答を求めた。またそのように評定した理由（エピソード）を記述できる欄を設けた。

質問紙15項目における回答人数と割合を表1に、15項目と回答割合を図1に示す。

表1. 質問紙15項目における回答

保護者対応における戸惑いや難しさとして、どれぐらい自分にあてはまるか「評定の仕方」によって評定し、あてはまる数字に○をつけてください

	1 まったく あてはまらない	2 あてはまらない	3 どちらとも いえない	4 あてはまる	5 非常に あてはまる
(1) 配慮要する家庭	2名 (3.4%)	0名 (0.0%)	9名 (15.3%)	35名 (59.3%)	13名 (22.0%)
(2) 関わり方・距離感	5名 (8.3%)	7名 (11.7%)	9名 (15.0%)	29名 (48.3%)	10名 (16.7%)
(3) ネガティブ内容伝達	3名 (5.0%)	5名 (8.3%)	12名 (20.0%)	23名 (38.3%)	17名 (28.3%)
(4) 日常会話	4名 (6.8%)	13名 (22.0%)	14名 (23.7%)	23名 (38.9%)	5名 (8.5%)
(5) 伝達技術・言葉遣い	2名 (3.3%)	7名 (11.7%)	8名 (13.3%)	34名 (56.7%)	9名 (15.0%)
(6) 情報提供	4名 (6.9%)	7名 (12.1%)	21名 (36.2%)	19名 (32.8%)	7名 (12.1%)
(7) 経験のなさ	0名 (0.0%)	2名 (3.4%)	7名 (11.9%)	33名 (55.9%)	17名 (28.8%)
(8) 記帳の技術	8名 (13.6%)	9名 (15.3%)	15名 (25.4%)	19名 (32.2%)	8名 (13.6%)
(9) 共有・連携	4名 (6.8%)	4名 (6.8%)	20名 (33.9%)	28名 (47.5%)	3名 (5.1%)
(10) 瞬時の応答	0名 (0.0%)	3名 (5.1%)	4名 (6.8%)	31名 (52.5%)	21名 (35.6%)
(11) 苦情対応	5名 (8.3%)	5名 (8.3%)	18名 (30.0%)	23名 (38.3%)	9名 (15.0%)
(12) 情報開示の範囲	7名 (11.9%)	5名 (8.5%)	25名 (42.4%)	19名 (32.2%)	3名 (5.1%)
(13) 要望対応	3名 (5.2%)	6名 (10.3%)	22名 (37.9%)	20名 (34.5%)	7名 (12.1%)
(14) 信頼関係構築	4名 (6.7%)	5名 (8.3%)	10名 (16.7%)	30名 (50.0%)	11名 (18.3%)
(15) 相談対応	2名 (3.4%)	4名 (6.8%)	11名 (18.6%)	27名 (45.8%)	15名 (25.4%)

()内は各項目内容における回答の割合
(1)～(15)は質問項目の番号に対応

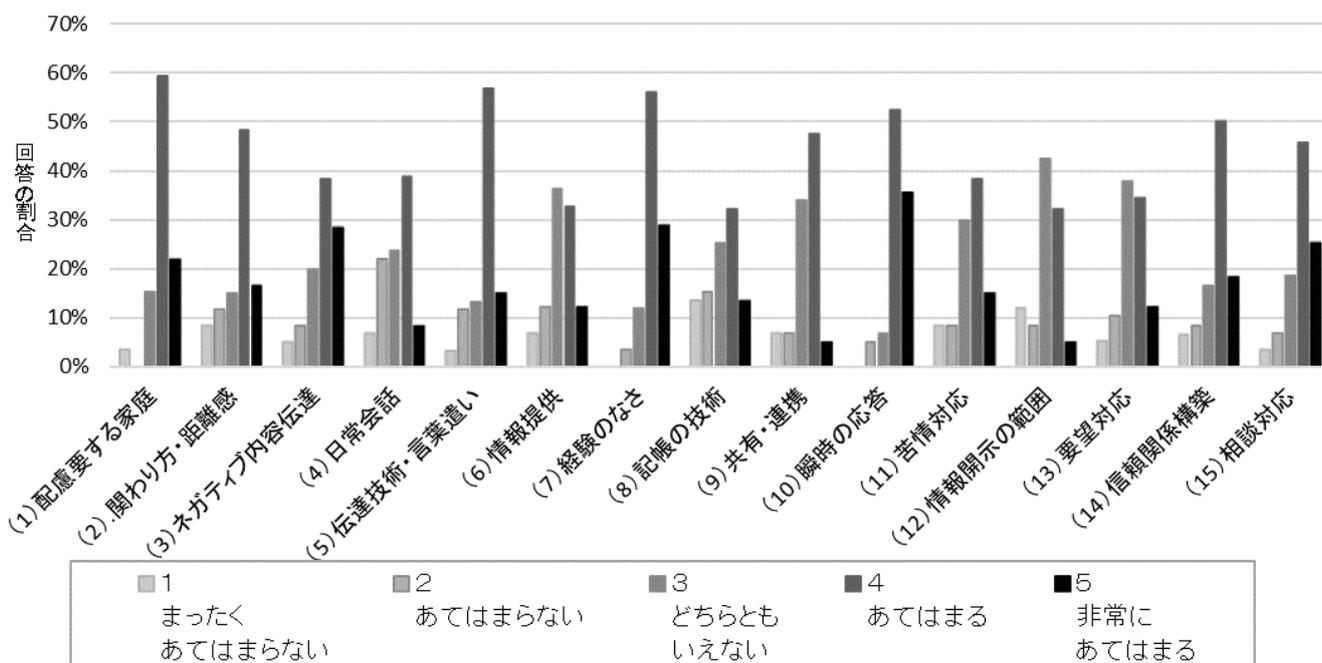


図1. 15項目と回答割合

(1) 配慮を要する家庭や保護者への対応について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(3.4%)」、「あてはまらない(0.0%)」、「どちらともいえない(15.3%)」、「あてはまる(59.3%)」、「非常にあてはまる(22.0%)」(60名のうち未回答1名を除く)という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答した81.3%が、その理由として記述した内容を見ると、「話が通じなかったり、必要なことを伝えてもらえなかったりする」、「気になる子どもの保護者対応が大変だから(保護者が障がいについて、理解していない)」、「家庭の様子がみえない」、「子どもへあまり関心がない感じ」などが挙げられ、新任保育者の経験のなさや未熟さのみが要因ではなく、対する保護者の要因も影響していることがうかがえる。中平ら⁵⁾によると、経験年数の長さが保護者対応の困難さの軽減に直結しているとは短絡的には言えず、多様化する家庭環境などにより、保護者対応も複雑になっているため、若手保育士のみではなく、中堅・熟練保育士も、困難を感じている現状があると指摘している。

(2) 保護者との関わり方・距離感について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(8.3%)」、「あてはまらない(11.7%)」、「どちらともいえない(15.0%)」、「あてはまる(48.3%)」、「非常にあてはまる(16.7%)」という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは65.0%であり、評定した理由としては、「近すぎ(親しすぎ)でもいけないし、だからといって遠すぎていけないし、ちょうどよい距離感がわからない」、「保護者が年上であることが多いので、どのような距離で接すれば良いか迷う」、「話した後に振り返りながら『あの話し方は保護者から見てどう見えていたかな』と考えてしまう」などが挙げられた。

(3) ネガティブな内容の保護者への伝達について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(5.0%)」、「あてはまらない(8.3%)」、「どちらともいえない(20.0%)」、「あてはまる(38.3%)」、「非常にあてはまる(28.3%)」という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは66.6%であり、「子どものケガの報告等、言いくく感じる」、「そのことを伝えた後、どう思われるか不安」、「言葉を選んで伝えないと、捉え方一つで関係を悪くする」、「保護者が悲しい気持ちになってしまうのが怖い。けがをってしまった時が申し訳ない」、「嘔みつきに対しての保護者の理解が乏しい」などが挙げられた。

(4) 保護者とのコミュニケーション(日常会話)について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(6.8%)」、「あてはまらない(22.0%)」、「どちらともいえない(23.7%)」、「あてはまる(38.9%)」、「非常にあてはまる(8.5%)」(60名のうち未回答1名を除く)という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは47.5%であり、「話(特に帰り)が長くなってしまう」、「迎えの際の会話(伝えたいことがない時)の話題が出てこず困る」、「どのような会話をしていけばよいかわからない(他のクラスの親に対して)」などが挙げられた。

「まったくあてはまらない」「あてはまらない」と回答した28.2%は、「今日あったエピソードや子どもの様子を楽しく話せている」、「日頃の会話を通して慣れてきた。フレンドリーな方が多くて楽しい」、「子どもの成長をほぼ毎日伝える」などの記述がみられた。

(5) 保護者に対する伝達技術・言葉の使い方について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (3.3%)」, 「あてはまらない (11.7%)」, 「どちらともいえない (13.3%)」, 「あてはまる (56.7%)」, 「非常にあてはまる (15.0%)」 という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 71.7% であり、「保護者の方と会話する時に、きちんとした言葉や内容が思い浮かばない時がある」, 「失礼にならないように考えながら話す、語彙力のなさを感じる」, 「話したい内容をまとめて伝えられない」, 「正しい敬語がすぐに出てない時がある」などが挙げられた。

(6) 保護者への情報の提供について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (6.9%)」, 「あてはまらない (12.1%)」, 「どちらともいえない (36.2%)」, 「あてはまる (32.8%)」, 「非常にあてはまる (12.1%)」 (60 名のうち未回答 2 名を除く) という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 44.9% であり、「どこまで伝えるべきか悩むことがある」, 「自分の情報が本当に正しいのか不安になって先生に確認している」, 「他の子どもの情報など、どこまで知らせて良いのか (トラブルが起きた時、相手の子どもに診断名がついている時)」などが挙げられた。

最も割合が高かった「どちらともいえない」と回答した 36.2% においては、「分からないことは一度主任に確認してから保護者に伝えている」, 「他のクラスの先生や先輩の先生に聞いている」, 「分からない時は担当の保育士に聞いている」などが多くみられた。

(7) 自分の経験のなさや保護者への対応について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (0.0%)」, 「あてはまらない (3.4%)」, 「どちらともいえない (11.9%)」, 「あてはまる (55.9%)」, 「非常にあてはまる (28.8%)」 (60 名のうち未回答 1 名を除く) という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 84.7% であり、「園のことを聞かれてもわからない」, 「先輩と相談しながら対応するにはしているが、1 年目だとやはり保護者は不安なのかと考えるから」, 「一人で判断できない時に戸惑いがある」, 「経験不足からくる自信のなさが出てしまう」, 「相談された時に、自分の回答に自信がない」などが挙げられた。

(8) 連絡ノート (お便り帳) 記帳の技術について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (13.6%)」, 「あてはまらない (15.3%)」, 「どちらともいえない (25.4%)」, 「あてはまる (32.2%)」, 「非常にあてはまる (13.6%)」 (60 名のうち未回答 1 名を除く) という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 45.8% であり、「どういう言葉で書いたら伝わるのか、文字にするのが難しい」, 「文章で残るものなので、言葉遣いなどをよく考えないといけないから」, 「じっくりと言葉を選んで書く時間がない。文字では伝わりにくい」などが挙げられた。

「まったくあてはまらない」「あてはまらない」と回答した 28.9% を見てみると、「連絡ノートがない」, 「短大の授業で学んだことが生きている」, 「大学の授業がとても役に立っている」, 「保護者の方とのコミュニケーションにつながるし、家での子どもの様子を書いてくださる方もいて、見ていて楽しい」などの記述がみられた。

(9) 保護者との情報共有と家庭との連携について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(6.8%)」、「あてはまらない(6.8%)」、「どちらともいえない(33.9%)」、「あてはまる(47.5%)」、「非常にあてはまる(5.1%)」(60名のうち未回答1名を除く)という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは52.7%であり、「家庭での様子を上手く聞き出せない」、「家庭でどのような姿が見られるのかがわからない」、「登園時や連絡帳で情報を共有するようにしている」、「保護者の気を悪くしないように、家庭にどのようにお願いしたり、話したりするか(難しい)」、「お便りを読まない家庭が多い」などが挙げられた。

(10) 保護者に瞬時に応じる(応答する)ことに対して、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(0.0%)」、「あてはまらない(5.1%)」、「どちらともいえない(6.8%)」、「あてはまる(52.5%)」、「非常にあてはまる(35.6%)」(60名のうち未回答1名を除く)という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは68.1%であり、「聞かれてもわからないことが多く、すぐに答えられない」、「間違っていないか不安になる」、「対応はしようと試みるが、間をおいて話すようにしている」、「自己判断できない内容。子どもの事を十分に把握しておらず即答できない時」、「保護者の方から相談された時など、すぐに返答が思い浮かばない時がある」、「言葉を慎重に選びたいため、戸惑ってしまう」などが挙げられた。

(11) 保護者からの苦情に対する対応について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(8.3%)」、「あてはまらない(8.3%)」、「どちらともいえない(30.0%)」、「あてはまる(38.3%)」、「非常にあてはまる(15.0%)」という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは53.3%であり、「園での対応の違い(保護者との保育観の違いで対応が変わる)」、「怪我した時など納得いかない時がある」、「上の先生や園長先生などに相談している。戸惑いがある」などが挙げられた。

「まったくあてはまらない」「あてはまらない」と回答した16.6%では、「あまり園に苦情がない」、「また苦情を受けたことがない」などが挙げられ、「どちらともいえない」と回答した30.3%では、「対応したことがないため分からない」、「先輩の先生と一緒にあって対応してくれる」、「周りの先生と共有し、解決していく」などが挙げられた。

(12) 保護者への情報開示の範囲について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない(11.9%)」、「あてはまらない(8.5%)」、「どちらともいえない(42.4%)」、「あてはまる(32.2%)」、「非常にあてはまる(5.1%)」(60名のうち未回答1名を除く)という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは37.3%であり、「どこまで伝えるべきか悩む」、「気にしすぎる保護者もいるため」、「どこまで情報を出していいのか分からない」などが挙げられた。

最も割合の高かった「どちらともいえない」と回答した42.4%においては、「まだ直接対応したことがない」、「分からないことは一度主任に確認してから保護者に伝えている」、「事前に相談している」等の記述がみられた。

(13) 保護者からの要望への対応について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (5.2%)」, 「あてはまらない (10.3%)」, 「どちらともいえない (37.9%)」, 「あてはまる (34.5%)」, 「非常にあてはまる (12.1%)」 (60 名のうち未回答 2 名を除く) という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 46.6% であり、「自分では判断できないことが多いから」, 「無理な要望をしてくる保護者がいる」, 「保育園との方針と異なる時」, 「給食の野菜は食べさせなくてよいと言われた時の対応に困った」, 「『虫に刺されないようにして』と言われた時は無理だと思った」などが挙げられ、要望についての具体的内容がうかがえた。

「どちらともいえない」と回答した 37.9% においては、「経験はないが、どう声掛けすればよいか難しいだろうと思う」, 「他の先生に尋ねながら対応する」, 「園全体で対応していく」などの記述がみられた。

(14) 保護者との信頼関係構築について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (6.7%)」, 「あてはまらない (8.3%)」, 「どちらともいえない (16.7%)」, 「あてはまる (50.0%)」, 「非常にあてはまる (18.3%)」 という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 68.3% であり、「日々の積み重ねが大切だと思った」, 「できるだけコミュニケーションをとるようにしているが、信頼されているか実感できない」, 「あまり関わらない人とは難しさを感じる」, 「おたより・連絡帳だけでは把握しきれず、お互いを知ることができない」, 「少しずつ心を開いてくれる人とそうでない方がいる」, 「信頼関係構築には時間がかかるから」などが挙げられた。

(15) 保護者からの相談への対応について、戸惑いや難しさを感じている

「まったくあてはまらない (3.4%)」, 「あてはまらない (6.8%)」, 「どちらともいえない (18.6%)」, 「あてはまる (45.8%)」, 「非常にあてはまる (25.4%)」 (60 名のうち未回答 1 名を除く) という結果であった。

「あてはまる」「非常にあてはまる」と回答したのは 71.2% であり、「経験不足からうまくアドバイスなどできない」, 「相談されたことに対しての受け答えが難しい」, 「自分の伝えたことが正しいかわからないため」, 「1 年目なので、アドバイスというようなことは上から (目線) だと思われぬ不安」, 「まだ経験が浅く、素早く回答が思い浮かばないうえに、自信がない」, 「人それぞれの成長がある事など、伝え方が難しい」などが挙げられた。

「まったくあてはまらない」「あてはまらない」「どちらともいえない」と回答した 28.4% を見ると、「上の先生に相談しながら対応している」, 「なかなか相談を受けることがない」, 「相談されたことがない」, 「難しさを感じる時もある」などの記述がみられた。

【3】保護者からの相談の有無と相談内容

保護者からの相談を受けたことが「ある」・「ない」を選択する回答を求め、さらに相談を受けたことが「ある」に該当する場合、どのような相談内容であったか、簡潔に記述できる欄を設けた。

60 名のうち、保護者から相談を受けたことが「ある」と回答したのは 47 名 (78.3%)、 「ない」と回答したのは 10 名 (16.6%)、未回答が 3 名であった。担当するクラス (子ども) の年齢によ

り、相談内容が異なることが想定されるため、「3歳未満児クラス（0・1・2歳児）」と「3歳以上児クラス（3・4・5歳児）」とに分けて分類することとした。また、記述された相談内容においても、意味内容別に分類した。

(1) 3歳未満児クラス（0・1・2歳児）における相談の有無と相談内容

「3歳未満児クラス（0・1・2歳児）」担当23名のうち、保護者から相談を受けたことが「ある」と回答したのは19名（82.6%）、「ない」と回答したのは4名（17.3%）であった。

相談内容（複数回答）として14種類に分類した39件を、図2に示す。

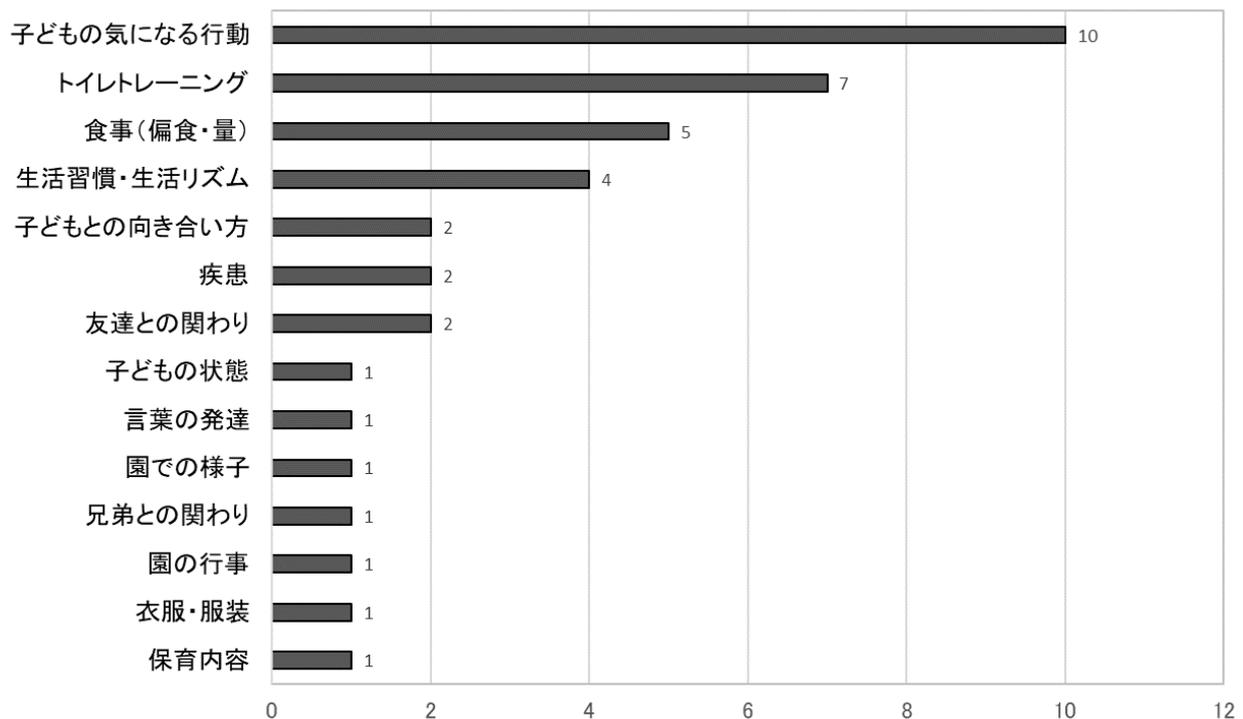


図2. 保護者から受けた相談内容(0・1・2歳児)

「子どもの気になる行動」に関する内容が最も多く、「家で落ち着きがないが園ではどうか」、「すぐ、かんしゃくを起こす」、「言葉のどもりや爪をかむことについて」などが挙げられ、次に多かった「トイレトレーニング」においては、「家での排泄、トレーニングパンツのタイミング」などが挙げられた。「食事（偏食・量）」においては、「野菜を食べない。園でどうやって食べさせているのか」、「子どもの食事の量や食欲」などが挙げられ、「生活習慣・生活リズム」に関する内容に関しては、「夜寝ない」、「夜泣きによる生活リズムの乱れについて」などが記述された。

(2) 3歳以上児クラス（3・4・5歳児）における相談の有無と相談内容

「3歳以上児クラス（3・4・5歳児）」担当37名のうち、保護者から相談を受けたことが「ある」と回答したのは28名（75.6%）、「ない」と回答したのは6名（16.2%）、未回答3名であった。

相談内容（複数回答）として22種類に分類した58件を、図3に示す。

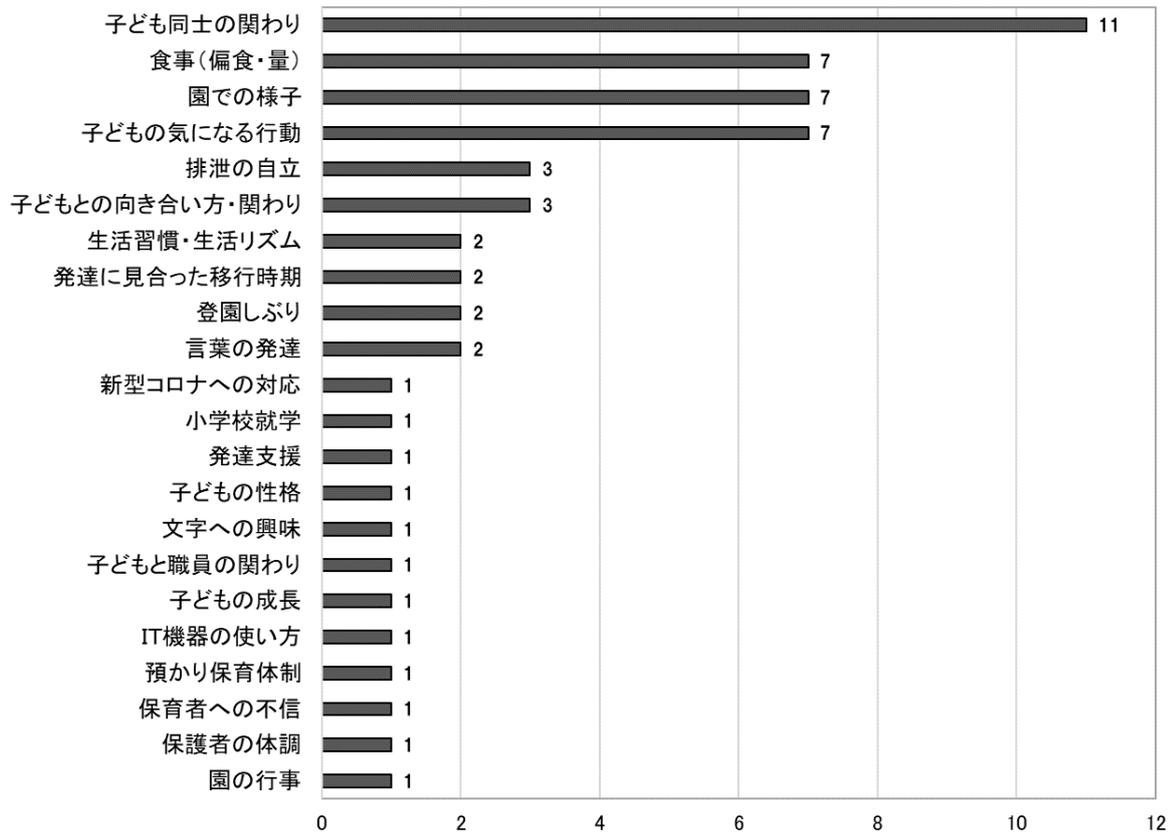


図3. 保護者から受けた相談内容(3・4・5歳児)

最も多かったのが「子ども同士の関わり」に関する内容であり、「友達と関わりがもてているのか」、「子どもがいじめられていると言ってきた。園ではどうか」、「仲の良い子と離れて友達がいない」、「友達同士のトラブル」などが挙げられた。次に多かったのが「食事(偏食・量)」に関する内容であり、「家での偏食に困っている」、「野菜を家で全く食べない」、「食に関すること(好き嫌い、食べるスピード)」などが記述された。「園での様子」としては、直接的な相談ではないものの、日頃の園での様子を伺うことから、相談に発展することも考えられる。「子どもの気になる行動」においては、「家でかんしゃくが凄い」、「子どもが精神的に不安定」、「参観日や行事での自分の子どもの姿が気になった(一人だけウロウロしたり、違うことをする)」などが挙げられた。

【4】保護者の対応について困ったときに相談できる人の有無と相談者

保護者の対応について、困ったときに相談できる人が「いる」・「いない」を選択する回答を求め、「いる」に該当する場合は「どなたに相談していますか(複数回答可)」と提示し、具体的な相談者を記述する欄を設けた。

保護者の対応について、困ったときに相談できる人が「いる」と回答したのは、60名のうち55名(91.6%)であり、相談できる人が「いない」と回答したのは2名(3.3%)、未回答が3名であった。相談できる人が「いる」と回答した55名が記述した具体的な相談者を(うち2名は誰に相談するか未記入)、図4に示す。

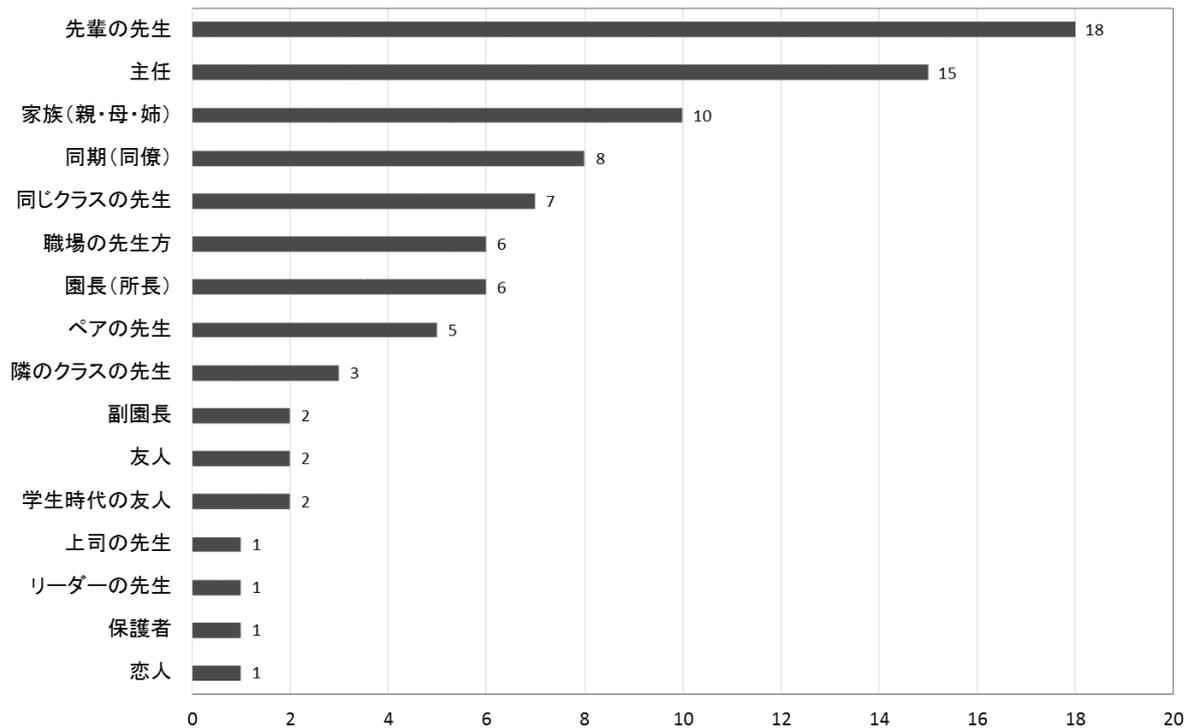


図4. 保護者の対応について困ったときに相談する人(複数回答)

保護者の対応について困った時に相談する人として、最も多く挙げられたのが「先輩の先生」18回答であり、次いで「主任」15回答であった。「同期(同僚)」5回答、「同じクラスの先生」7回答、「職場の先生方」6回答、「園長(所長)」6回答、「ペアの先生」5回答、「隣のクラスの先生」3回答、「副園長」2回答、「上司の先生」と「リーダーの先生」が1回答となっており、職場の先輩や先生方、同僚に相談すると回答したものを合わせると72回答あり、複数回答ではあるものの、総回答数88の81.8%を占め、多くの新任保育者が職場において相談できる体制を築いていることがうかがえた。

職場以外の相談者として最も多く挙げられたのが「家族(親・母・姉)」の10回答であり、次いで「友人」2回答、「学生時代の友人」2回答、「保護者」と「恋人」が1回答という結果であった。複数回答で求めているため、職場において相談することに加えて回答しているものも含まれるが、職場以外の相談者総数は16回答であり、総回答数88の18.1%を占めるに留まった。子どもと保護者に関する情報の共通認識を図ることが有効なことから、勤務先の先生方や同僚に相談すると回答した割合が高いことが想定され、加えて守秘義務の遵守という観点からも、このような回答結果に結びついたと考えられる。

今回の調査においては、2名が保護者の対応について困ったときに相談する人が「いない」と回答した。自由記述欄を設けていなかったため残念ながら詳細を知るには至らなかったが、この2名の質問紙15項目の評定を見てみると、それぞれ平均が4.2及び4.1となっており、2名共に保護者対応における戸惑いや難しさとして「あてはまる：4」と「非常にあてはまる：5」の間に位置していた。残念ながら、援助やサポートを求めないまたは求められない環境にあることが想定されるが、困難さを抱えた状況で、職務を遂行しなければならない現状にある新任保育者の存在が確認された。

庭野⁶⁾によると、新任保育者の職務継続を難しくさせる事柄として、「相談する人がいない」こ

とを挙げ、新任保育者は技術的に未熟で経験も少ないことから、気軽に相談できる人の存在が必要であると指摘している。「離職」を防ぐためにも、相談できる先輩保育者等のサポートと安心できる居場所の確保が必要とされることを示している。また、須永⁷⁾によると、新任保育者へのサポートのうち、年齢や経験、考え方が多様な職員が存在することが要件の一つとして求められること、また、新任保育者のサポートを考える際、園の職員の数や経験年数も考慮する必要があることを示している。また、保護者対応については、園の規模が大きいほど、サポート体制を作りやすいことを示唆している。

【5】学生時代に勉強しておけばよかったこと・知っておきたかったこと

「学生時代にもっと勉強しておけばよかったこと、知っておきたかったことがあれば教えてください」と提示し、自由記述にて回答を求めた。記述内容を意味内容別に 27 分類したものを図 5 に示す。

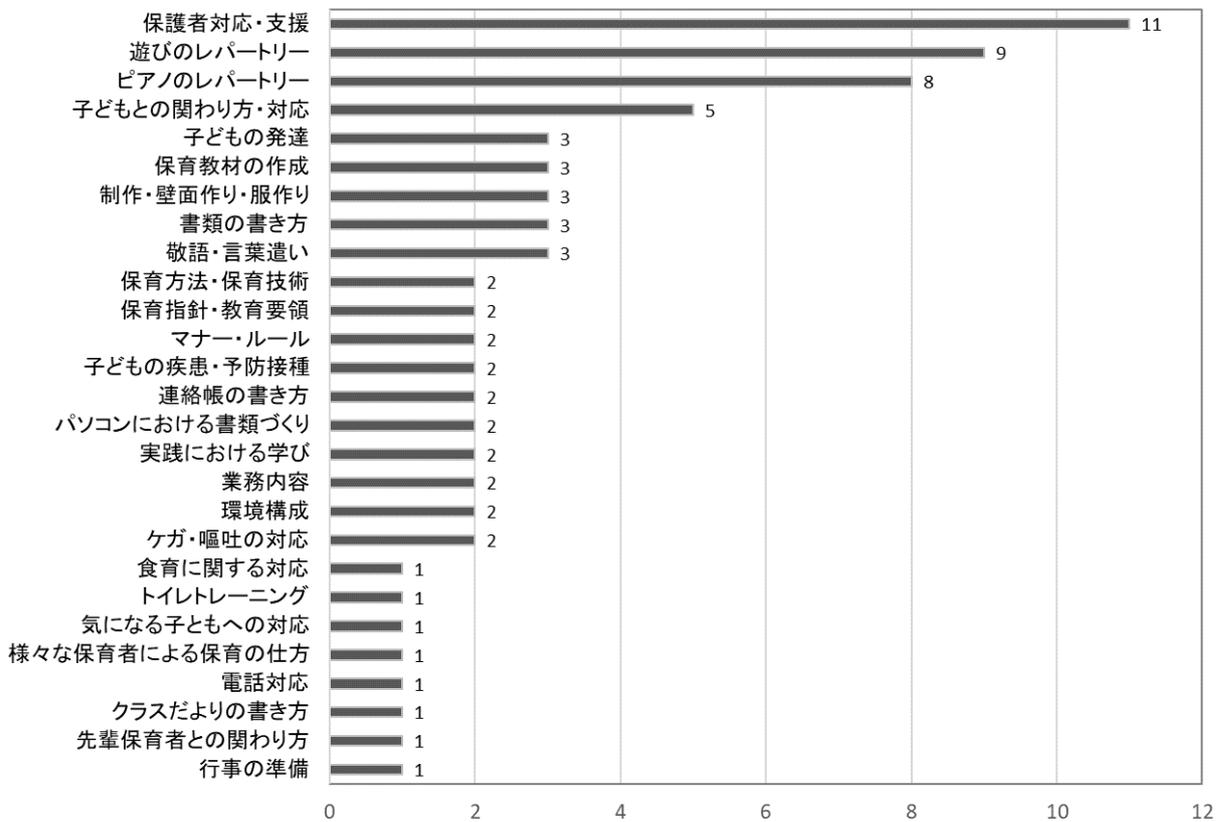


図5. 学生時代に勉強しておけばよかったこと・知っておきたかったこと

最も回答が多かったのが「保護者対応・支援」であり、「保護者とのコミュニケーション」、「保護者の悩みについて、またその解決法」、「直接保護者に言われた時の対応」、「保護者支援」などが挙げられた。保育技術の修得や子どもに対する具体的な対応のあり方など、保育内容に関する事項に加え、保育教材の作成や環境構成、連絡ノートや書類作成等の業務内容に関する事項など多岐に渡り、保育者として日々の保育や業務を行うなかで、その必要性を実感していると考えられる。また、それらの事項は、広く捉えると保護者対応や相談対応に必要な知識や実践力にも、密接に関連している。

2. 本研究のまとめと今後の課題

本研究では、新任保育者が保護者対応において抱える課題および相談対応の現状を把握することを目的とし、質問紙調査を実施した。

保護者対応における戸惑いや難しさとして、「あてはまる」「非常にあてはまる」に該当する回答が80%以上であった項目は、「(1) 配慮を要する家庭や保護者への対応 (81.3%)」, 「(7) 自分の経験のなさや保護者への対応 (84.7%)」であった。一方、「まったくあてはまらない」「あてはまらない」「どちらともいえない」と回答された記述を見ると、「先輩の先生と一緒にあって対応してくれる」、「先輩の先生に相談しながら対応している」、「まだ直接対応したことがない」などの理由が示されており、サポートを受けながら対応できる体制にあることに加え、一人で対応する経験がまだないことなどから、戸惑いや難しさを実感するまでに至っていないことが推測される。また、「短大の授業で学んだことが生きている」、「大学の授業がとても役に立っている」という記述も見られ、養成校での学びが、保護者対応における戸惑いや難しさを軽減する要因になっていると考えられる。

今回の調査では、所属と担当する子ども年齢について回答を求めたが、濱名ら⁸⁾によると、新任保育者の属性（勤務園の特性、就業特性、実習回数、担当する子どもの年齢、クラス体制、園の規模）によって離職意向、困難の内容、サポートを受けやすさ等が異なることが明らかにされており、保護者対応への体制においても何らかの影響を及ぼしていることが考えられる。今後の調査においては、新任保育者の属性を踏まえることも必要であると考えられる。

先輩保育者等に相談したことにより得られた助言やサポート内容が、その後の保護者対応にどのような変容をもたらすのか、そのプロセスを丁寧に捉えることも必要である。衛藤⁹⁾によると、他の保育士は、保護者対応を教えてくれる支援的存在であり、また自分の未熟さを露呈するきっかけとなる両義性ある存在であることを推察している。上田¹⁰⁾は、他者依存から自己解決への保育士価値観の形成と変容、失敗と成功経験のゆらぎによる価値観変容等を経て、1年間を通して自身の保育行為スタイルとして発生・維持していくことを明らかにしている。また、中平ら¹¹⁾によると、保護者との問題は経験年数に限らず多くの保育士が体験するが、問題が起きたときの対応は、経験年数の差によって異なったものになることが往々にしてあり、それは、経験年数にしたがって蓄積される保護者との関わりから、保護者への伝達方法や対応の仕方を心得ているためであることを指摘している。今後は新任保育者の保護者との関わりに焦点を当て、サポートを受けながら経験を重ねることにより、どのような変容プロセスをたどるのかを明らかにすることを、課題としたい。

今回の調査では、「もっと勉強しておけばよかったこと、知っておきたかったこと」と提示し回答を求めた。養成校での学びが、保護者対応の実践場面において具体的にどのような形で活かされているのか明らかにするためには、「勉強していて良かったこと、知っていた知識が生かされたこと」についても、保護者対応に焦点を絞って調査することも必要であると考えられる。養成校における保護者対応に関連する学びを再検討することも、今後の課題としたい。

引用文献

- (1) 濱名 潔・中坪 史典 (2019). 新任保育者の離職と育成をめぐる研究の動向と課題 幼年教育研究年報, 14, 61-74.
- (2) 久松 尚美 (2018). 保護者とのかかわりにおける新任保育者の課題の検討 宮崎学園短期大学教育研究, 14, 39-42.
- (3) 久松 尚美 (2019). 新任保育者が抱える保護者との関わりにおける課題 宮崎学園短期大学教育研究, 15, 29-32.
- (4) 久松 尚美 (2020). 新任保育者が抱える課題 宮崎学園短期大学教育研究, 16, 26-29.
- (5) 中平 絢子・馬場 訓子・竹内 敬子・高橋 敏之 (2016). 事例から見る望ましい保護者支援の在り方と保育士間の連携 岡山大学教師教育開発センター紀要, 6, 21-30.
- (6) 庭野 晃子 (2016). 新任保育者が職場を「辞めたい」と思うプロセス—職場側の要因に注目して— 白梅学園大学・短期大学 教育・福祉センター研究年報, 21, 17-28.
- (7) 須永 美紀 (2018). 新任保育者へのサポート体制に関する一考察—保育士へのアンケート調査を通して— 子ども教育宝仙大学紀要, 9 (2), 39-46.
- (8) 前掲(1)
- (9) 衛藤 真規 (2018). 新任保育士の経験する保護者との関わり—難しさに関する語りの変容プロセスに着目して— 保育各研究, 56 (3), 149-160.
- (10) 上田 敏丈 (2014). 新任保育士のサトミ先生はどのようにして「保育できた」観を獲得したのか—保育行為スタイルと価値観に着目して— 保育各研究, 52 (2), 88-98.
- (11) 中平 絢子・馬場 訓子・高橋 敏之 (2014). 信頼関係の構築を促進する保育所保育士の保護者支援 岡山大学教師教育開発センター紀要, 4, 63-71.

付記

本論文は、第5回日本保育者養成教育学会研究大会で発表された内容（久松，2021）に加筆したものである。